

心一つに向かって

同窓新報

題字・故 上野慧賢先生
発行所 駒澤大学高等学校
同窓会 正会員数 25,406名
東京都世田谷区上用賀1丁目
〒158-8577 TEL.3700-6131(代)
FAX.3708-7291
振替口座 0018-6-61881
http://komakou-dousokai.net
E-mail:dosokai@komazawa.net

会長挨拶

同窓会会長
妻倉由明



この度、諸先輩の方々より会長として推挙いただきました。

今や卒業生も二五〇〇〇人を超え、来年度には同窓会六十周年記念総会を控えている中で責任の重さを痛感しております。

微力ではございますが同窓会並びに母校発展の為に努力させていただきます所存でございます。

同窓会では、「同窓生相互の親睦を図る」、「母校発展の為に寄与する」を二大柱として様々な助成をしております。一つにはクラス会・OB会・OG会開催にあたっては

助成しております。また、一つには、校友会各クラブに助成をしております。母校には、最近では防犯カメラを寄贈しております。また、同窓会ホームページを以前よりも充実させ、同窓生が経営しているお店等も紹介しております。同窓新報ではご活躍されている方々(例えば出版したとか、賞をもらったとか)を紹介しております。

この様に、同窓会では皆様方とのパイプを太くし、母校へいつでも気軽に足を運んでいただける様々な取り組みと画策を図っております。

今後この「二大柱」をより強固なものにする為努力をしていく所存でございます。皆様のご支援・鞭撻宜しくお願いいたします。(十六期)

同窓会役員総会・懇親会開催

平成二十二年五月二十二日(土曜日)、新宿にあるハイアットリージェンシー東京で同窓会役員総会並びに懇親会が開催されました。

会場は久しぶりの再会談義に花が咲き、午後四時定刻司会・久保田昌希副会長の総会開会宣言で始まりました。

真田治孝同窓会会長より挨拶がありました。母校の発展と同窓会員の活躍を誇り高く感謝し、会員の更なる社会に貢献を期待したいと。

鈴木貞雄校長より祝辞を頂きました。学校の益々の発展と生徒の社会連携学習が軌道に乗るなど話題豊富に、そし



永年勤務者記念品贈呈式

て同窓会との連携を維持すると。

続いて、永年勤続者の方に同窓会から記念品を贈呈。

四十年

若月 道隆(地歴)

田中 隆一(数学)

- 朝内 賢光(宗教・武道) 三十年
- 岩岸 孝(国語) 十年
- 馬場 元司(国語) 新井 壘(体育)
- 田中隆一教諭より、代表挨拶をいただきました。
- 続きまして本日の総会議題に移り、司会一任で議長を選任し、高木恒一副会長による議事進行になりました。
- 平成二十一年度事業報告
- 平成二十一年度決算報告
- 平成二十一年度会計監査報告
- 平成二十二年役員報告
- 平成二十二年事業計画

同窓会六十周年記念総会・懇親会準備委員会中間報告

荒井 伸 夫(二十期)

準備委員会も第三回と現時点で開催を数え、その中で日程の決定から始まり会場予約、総会議事次第の項目、懇親会の形式や参加者に配る記念品の選定、参加開催通知方法など大まかに話し合いができました。

平成十七年六月十一日(土曜日) 同窓会五十五周年記念総会・懇親会が母校で執り行われた。奇しくも今回も同じく母校になりましたが、最初から母校と決めていた訳で無くホテルなどそのような催し会場を幾つか当たった結果別の予約が入って

いて取れなかったものであります。準備委員会では日程は学校側の意向も伺い幾つかの中で協議

して平成二十三年十月十五日と決まりましたが、その会場の選定でこのような問題となり学校側に相談し借用を快諾頂いた次第であります。会場も決まり懇親会も前回は参考立食形式が良かったのではないかと準備委員の中で出ていますが、協議継続事項となっております。なぜなら一期生の年齢は八十歳を越えるのに立食形式だけではよいのか。何か工夫があれば和やかに時間が過ぎるのではないだろうか。もう少し準備させていただきたいと思っております。

記念品もいろいろな提案されましたが重たいもの、かさばるもの、無用の長物になるだろうと

生・恩師ら乾杯の発声に唱和、和やかに懇親会が始まりました。賑やかな歓談の声は渦をまいて会場を明るく包んでいた楽しい時ほど予定時間はアツという間に超過。ついに、懇親会の閉会となりました。

出席いただきました会員の皆様、ありがとうございました。

お詫び

第四十四号で掲載しました「フットサル日本代表」小宮山 友祐氏の文章の中で現在所属チーム名に誤りがありました。

平成十九年四月からパルドラール浦安に移籍、ご活躍されております。

60周年記念総会・懇親会

駒澤大学高等学校同窓会

開催日：平成 23 年 10 月 15 日(土)

会場：母校にて

役員一同並びに準備委員は、今後も委員会の回数を重ねて行き、立派な式典に仕上げたいと考えて努力していきます。

同窓生の皆様におかれましてはお忙しい中でありまじょうが当日母校に足を運んでいただきたく、奮ってご参加お待ちしております。

恩師の肖像

いま私は

「坐井觀天」

浦 敏之



「皆さまに感謝いたします」

二〇〇九年三月末日をもちまして、駒澤大学高等学校を退職しました。一年半の間、同窓の皆様に退職の挨拶をする機会が遅れましたことにお詫びいたします。今回、同窓新報編集委員会の温かいご配慮により、同窓の皆様に退任のあいさつをさせていただく機会を持てましたこと厚く感謝いたします。

在職中の開校六十周年記念事業につきましては同窓生の多くの方々に無理をお願いしましたが、大変多くの方々から温かな気持ちのこもったご寄附をいただきました。おかげさまで学校のリニューアル工事が無事に終了しましたことをご報告いたします。世間では首都圏を襲うと心配される大地震に備えるために、生徒たちの安全を守るための校舎耐震化に苦勞しています。が、同窓生のご協力のおかげで駒澤大学高等学校では校舎の耐震化を終了させることができました。また、グラウンドの人工芝工事も行えました。改装なった母校を一度お訪ねください。

「どのように保ったか」

本日は二〇一〇年九月二十二日です。私が駒澤大学高等学校に入学したのが一九六〇年でした。五十年を超える時間が経ってしまいました。この間、同窓会とは大いにかかわりをもって暮らしてきました。特に卒業しました一九六三年以降二〇〇九年まで、ずっと同窓会の仕事をしてきました。一九六七年に奉職させていただいた後、校長職を拝命する二〇〇四年までは、「同窓生のためになる会」とするためにいかに活性化し、そのためには何をすればよいのかを日夜考えていました。校長職拝命後は学校全体をどうするか、どうすれば生徒たちが喜ぶ学校にできるか、生徒たちの学習活動をどう応援すべきか、ということだけを考えて仕事をしていました。五十年間を振り返ってみますと実に多くの方々にお世話になりました。特に、同窓会事務局の仕事をさせていただきましておかげで多くのこと学ぶことができました。秋山彰三元会長を中心とした役員の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

「名簿を作る」

同窓会の仕事として、最初にかかわったのは名簿の整備でした。最近では名簿の発行は難しい時代になりましたが、同窓会と会員を結び付けるにはどうしても会員の住所を把握することが必要でした。指導要録を調査し、名簿の原型

を作成しましたが、これには

事務員の佐々木貞子（当時）さんの力をお借りしました。休日、夏休みも返上してタイプしてくださいました。全くの好意でした。この時の原稿が基となり、同窓生を把握できるようにになりました。その後もずっと住所の訂正を行っていました。高校卒業後に転居する方が多い上に、年々会員が増加するため、会員の住所把握のために苦勞しました。同窓新報に載せたり、別刷りにして同窓生に協力をお願いしたり、はがきを同封したり、教員に住所の確認を依頼したりと考えつくあらゆる方法を駆使しました。随分と多くの方から連絡をいただきましたが、それでも住所不明が減少することはありませんでした。訂正用名簿は真っ赤になり、それが最新の住所かを見極めるにも神経を使わなければなりません。住所管理のパソコン導入に当たっては、有川友弘教頭（当時）がやはり多大なる時間をかけて、打ち込みを協力して下さいました。住所の訂正はパソコン導入後は随分と楽になりました。今日の住所管理ができていますのは先生のおかげです。

「定期総会」

私が同窓会の事務に携わり始めたころの秋山会長（二期生）、清川副会長（二期生）、石井副会長（二期生）、関田副会長（三期生）、三木教諭（二期生）をはじめとする役員

員の皆様は会社等の中心で働

かれていたので多忙を極めていたのではないかと思います。みなさん同窓会を大切にされていました。同窓会運営のために献身的に協力されていました。同窓会を組織化し、同窓生が集まる機会を増やすことは重要ですので、役員会に諮り、定期的に総会を開くことになり、毎年総会を開催しました。五年ごとに特に盛大に総会を開くことになりました。駒澤大学の体育館で開催しました「同窓会創立二十周年記念総会」が最初でした。同窓生の集まる機会を増やすには全役員協力があつて初めて開催できました。同窓会は任意の団体であり、役員はボランティアで会の運営に当たっています。駒澤大学高等学校に勤務する者としては、そのことに十分配慮して同窓会の運営に関与してきました。

この原稿を書いていまして、この五十年間が走馬灯のように頭をめぐります。書きたいことがあまりにも多く、私の頭には多くの思い出が凝縮していますが、あまり多く書いても単なる過去への散歩でしかありませんので、まとめとして、「私の考える同窓会のあり方、私の目指した同窓会運営」について書かせていただきます。

「私はこう思う」

駒澤大学高等学校退職時に前会長の真田氏より、丁寧なお誘いを受けました。それは、私に副会長に就任せよとのことでした。大変申し訳ありませんでしたがこの申し出はお断りさせていただきました。その理由は、同窓生の代

表である会長・副会長は同窓

生の信任を得るに足る人間でなければならぬ。多くの苦難を乗り越え、貴重な体験をたくさん持つ人、実業界、宗教界、農業等、文化人、教育界等で活躍された人が担う役職であると考えます。駒澤大学高等学校に勤務する同窓生は仕事の一部です。内内で幹部になることは馴れ合い運営がなされる恐れがあります。黒子に徹して事務方として誠実に努めるべきと考えます。

「応援三団体」

話は変わりますが、駒澤大学高等学校には重要な三団体があります。同窓会、梅檀会（在校生の保護者会）、一如会（卒業生の保護者会）です。それぞれの団体が駒澤大学高等学校を支えています。三輪車に例えると前輪は同窓会が、後輪を保護者二団体に担ってもらいます。同窓会にはそれだけの責任があると考えます。特に来年は創立六十周年を迎えるのですが、この六十年間で幾多の人材を輩出し、どれほど素晴らしい業績を社会に残してきたかを考えます。同窓生の力を集結し、母校愛を満ちた団体である同窓会が駒澤大学高等学校をさらに飛躍させる力を発揮しなければならぬ。

「妻倉新会長を祝う」

今年役員改選があったことですが、先日、会長に就任された妻倉由明氏より、本原稿の依頼がありました。その時私は中国内モンゴルの砂漠化された草原で緑化活動をしていました。妻倉さんは卒業以来の同窓会役員です。彼は長く「会計」として、今日

のような組織作りとその任を

果たした業績があります。役員会では常に積極的に発言され、時には自分の仕事を犠牲にしてまで同窓会の運営の一翼を担いました。同窓会全体を運営するためのノウハウを熟知しています。不幸にして妻倉さんは副会長を経験していませんので、これまでの同窓会長の選任方法からしますとイレギュラーです。彼の役職者としての経験と母校愛を考えれば最適任者です。前会長が五期生でありましたが彼は十六期生ですので、かなり若返りました。彼は若い人の力を集め、機動力のある会の運営をされるでしょう。真田前会長は思い切った良い人を選んでくださいました。年配の同窓生と若い同窓生を結び付け、両者の意見を参考に素晴らしい同窓会運営してくれ

ることを期待しています。前輪の運転者として、三団体のバランスを保ち、駒澤大学高等学校がより飛躍するため、厳しくとも愛情のある提言をお願いいたします。また、「役員総会」で選任されたので、役員の方々には責任を持って妻倉会長を盛り立てていただきたいと思います。同窓会が同窓生のために、駒澤大学高等学校のために大きな力を発揮されることを祈っています。

最後に、同窓生の皆様のご健康で活躍されることをお祈りしまして、これまでの厚情に感謝しつつ、お別れの挨拶とさせていただきます。



「定年」によせて

教諭 馬場 捷 美



今年の三月末日を以て駒大高校を定年退職致しました。在職中は多くの先生方や卒業生の方々に大変お世話になりました。

本校は昭和四十一年の九月に駒澤の大学構内から現在に用賀の地に移転して来ましたが私共は翌年の四十二年に七名が教員として採用されました。

二年前に退職された津留先生や昨年定年退職された浦校長先生と同期でした。思い出せば「理科」の教員として採用していたときも右も左も分からない私を当時の上野賢先生や多くの先輩の先生方に指導していただきなんとか今日を迎えることができました。退職して半年が過ぎようとしていますがいろいろな事が思い出されます。林間学校や修学旅行、また永平寺拝登など各学年での思い出が続きません。中でも、私が最初に卒業させた生徒達（現在五十六歳）と行った十一泊十二日の九州一周の修学旅行は今では考えられない長丁場の旅でした。初めての事だったので戸惑う事も多かったことを思い出します。また、平成十一年に野球部が春の甲子園に出場し長崎日大高校に勝利し二回戦に勝ち上がったことです。二回戦は残念ながら京都平安高校に負けましたが、自

分が勤務している間にまさか甲子園に連れて行ってくれるとは思ってもいませんでした。しかも、その時私は二年生の学年部長をしていましたのでなんて幸運なんだろうと生徒に感謝したものです。

平成七年には当時の羽住校長先生の英断で男女共学になり、学校の雰囲気もガラリと変わり男子校時代の「質実剛健」の校風だけでは対処できなくなり、先生方も苦勞されました。幸い新進気鋭の女子の先生方の指導力により、今日を迎えることができたと思っております。

少し話は変わりますが教員には担任の他にそれぞれ職務分掌があります。私は学習指導部に所属した期間が一番長かったのですが、その他生徒指導や生徒募集委員会等仕事をしていただきました。特にここ十年程はほとんど生徒募集委員会に携わってきましてので一番印象に残っています。少子化で生徒数が減少する中、どの学校も生き残るを目指して必死で募生活動を行うようになり、いろいろな策を打ち出して来まして。

ただ、どこの高等学校でも共通していたのは男子校も女子校も男女共学化を図り、さらに大学難関校への合格を目指す方向へシフトしていきまして。そして、外部の進学説明会の会場へいってもどこの学校の先生方も一生懸命でした。

しかし、今、冷静に考えてみると、どこの学校も「優秀な生徒を取ろう、難関校に合格するような生徒を取ろう」と同じような方向に向かって走っていた(たぶん今もそう

だと思っています)なと思います。

しかし、そんなに学力の優秀な中学生ばかりいるわけはないのですからもう少し視点を変えて本校の教育の目的や日本的高等学校の中の立位置を考えに入れて募生活動をしていけばもっと違った展開ができるかもしれないですね。なにしろ世の中を支えているのは学者や政治家等の「偉い人」ではなくて良き「市民」なのです。願わくば本校も社会に貢献できる良き「市民」の育成に力を注いで欲しいと思います。

退職して外から高校を見ていろいろんな個性を持った学校があつていいんだなと思えてきました。我駒大高校も「行学一如」の建学の精神を忘れずに生徒が学習に打ち込めるような学園になるように願っております。

最後に駒大高校の益々の発展を期待しております。

(理科)

退職にあたり

教諭 須賀 喜一郎



三十八年の長きにわたって、沢山の方々にお世話になりましたことをまず最初に御礼を申し上げます。

奉職したての学校はどこも真新しく、昼の休み時間にはテレビスタジオから、各クラスへその日の学園ニュースの放映がなされ、三階のフロア

を突き抜け四階に至る映写設備の整った階談教室は圧巻で、高校の領域を超えて余りありました。「ほー！大学並みだなあ」と最新の設備に感嘆しきりのそんな出発でした。現在築四十年余となった校舎を見るにつけ、生徒諸君にも教職員の方々にも、一刻も早く新校舎で勉学に励める環境が実現できるよう、OBとしても何か貢献していかなばと決意しているところなのです。

今去って、しみじみ思うことが二つあります。一つ目は「学校とは教えることの好きな人間の集まりで構成されている集団である」という事実です。学問を教えることが大好きな教師もおれば、部での専門性に力を発揮する方裏方に行くために努力を惜しまない人、等々。一見すると畑違いの分野のように見えても、その根っこは生徒が好きだ、教育は面白い、自分の性に合っている、等々の共通点が見えてきます。

さて二つ目は、「教師は助けられて生かされている集団である」という事実です。担任や部の顧問はもとより各部門の責任ある教師は(すべての教師はこの中のどこかに該当しますが)ある意味、自営業者の要素を強く持ちます。自分で決める、自分で対応する。自分が指揮官ですから、常にその判断と結果は個人に帰着します。事がうまく運べば英雄のごとく扱われることもあり失敗して大恥をかく場面も少なくありません。野球に例えれば、一割一分一厘位の出来で、迷惑と恥ずか

しさの連続が私の生涯打率でありました。(苦笑)

しかしよく考えてみると、自分で決済しているように見える場面の大半は他の教師の理解と応援があつたればこそ結果であつたり(ある意味、生徒や保護者の方々の尽力で助けられることも少なくありません)、失敗して深く落ち込んでいても、その立ち上がれない時間に別の教師や部門の関係者が頭を痛め好転出来るようにフォローしてくれる事も多々ありました。

ともあれ「教えることが大好き」と「生徒のために」とは同義語であらうと思っている私には、与えられた分野を、どんな部門の担当でも、まがりなりにも勤め上げられたのは、この集団のオーラがあつたればこそ出来たのだと、あらためて感謝している次第です。

「あなたの足りない分を私がやっておいたよ」とは誰も言いませんし、そんなそぶりを見せません。好意に甘える場面が多いと、好意すらも分からぬ不知恩の生き方になってしまうから始末に負えません。これが、所謂「教師は使いモノにならない！」です??

そう考えると他の誰であらう、「自分のことであつたなあ」と猛省せずにはおられません。(無い頭髪を掻きながら苦笑い)

私にとって最大の盲点。ご厄介をおかけしながら気づかなかつたのは事務職の方々と、ビル代行の方々からの援助です。ここで深く反省とお詫びの気持ちを込めて大きな

声で「すみませーんでした！ありがとうございます！」と叫ばねばなりません。

そんな沢山の方々のお手を煩わしながら人は定年にたどりついたのだなあと思う、深く実感しています。

さて、退職を前に少々不安であつた事の一つは、退職後はどう生きてけば良いのかとの命題でした。何もかも一変してしまふのかなあ…との焦りと不安です。ところが人も

六十年目の発見

一期 原 正男

先日駒大高校六十周年記念誌を読んでいた旧教職員名簿に目が行き懐かしい先生方の名前を追っていくうちふと松

下穂の名前に目が止まりました。一期生に居た松下穂と同名同名の先生が居たのかと思つて名前の下を見て驚きました。講師、珠算となつていたのです。これは同期生の松下に違ひないと思ひまし

車も、テレビも新聞も見るとの聞くもの、そのすべての事象は退職前と全く変わる事なく、同じリズムで動いているではありませんか。

「なんだあー！何も変わっていないじゃないか」。…と言う事は、今までの生き方で良いのだ、自分らしく、今まで通りに生きていけば何ら問題は無いのだ…との結論でした。

元来難しい事は苦手でした

が少しの向上心と少しの前向き姿勢は何とかキープしてきまして、この生き方を失わず貫いて行きたいと決意しています。

最後になりましたが同窓会のみますすの発展とご興隆をお祈り申し上げ、このテーマの寄稿とさせていただきます。

ありがとうございました。

(数学科)

た彼はこの時すでに病にかかり大学を卒業する事なく亡くなったのです。

彼が母校の講師になつた事は一期生で話題になったことは聞いた事がなく恐らく誰も知らなかつたのではと思ひます。これを確認するには当時を知っている白浜先生に聞くしかないのですが、その先生が脳梗塞にて入院中で今のところこの様な事を尋ねられる状態ではありません。回復しだいお聞きしたいと思つて居間わずか七カ月です。早逝します。

どれも同じ。感謝をしており

ます。窓新報をご活用よろしくお願

いします。

編集作業でいつも苦勞するのが掲載する原稿が少ないという事実です。真っ白な紙面に原稿が埋まれば問題はありませ

ん。苦勞を背負つても、今後も編集委員会へ、同窓新報を続けてがんばり回数を重ねて努力していきます。同窓会の情報伝達のためとして同

編集委員会だより

同窓会六十周年記念の式典に向けて準備が進められています。私たちも同窓新報の編集に携わり編集作業をさせていただきます。その記念式典を迎える機会に迎合できる幸せを感じています。

浦敏之校長により、この同窓新報は生み出され育てられそして守り通してこられた長い歴史があります。単に続いたというものでありませ



編集委員会ある「コマ」私(荒井) 原名普役員 木村さん 妻倉会長

就任のご挨拶

教頭 貫井 洋



平成二十一年四月より、現
学校長である鈴木貞雄先生の
後任として教頭職に就任致し
ました。

さて、学校を取り巻く環境
は年々厳しくなっています。
少子化の影響や経済情勢の不
安定、公立学校の形態の変化
や授業料無償化制度など、大
きな変革期にあると言えま
す。その中で学校が生き延び

就任のご挨拶

事務長 白倉 新治郎



駒澤大学高等学校同窓生の
皆様には、日頃より本校の発
展のために物心両面からお力
添えをいただき、心より御礼
申し上げます。

本年四月に前任の澤口事務
長から事務長職を引き継ぎ、
早半年を過ぎようとしていま
す。このたび、同窓会新報の
紙面をお借りいたしました。

ら進めていきたいと思います。
私事です、高校時代の部
活動の同窓会に出席しまし
た。高校時代に経験したこと
は、皆と話をしていると共通
の思い出として、まるで昨日
にあったごとく蘇ってきました。
高校時代に始めた音楽を
趣味として今でも続けていま
す。それだけ高校時代は人生
の中で思い出深く、それから
の人生を左右するものだと思
感しました。

本校の同窓生の皆様にも
同じような思いを抱かれてい
る方も多くおられると思いま
す。貴重な青春のページを
刻む責任の一端を担っている
重さを感じつつ、本校の発展
のため、微力ながら努力して
まいります。

同窓生の皆様は事務長就任の
ご挨拶をさせていただきます
です。

私は、昭和四十六年三月、
駒澤大学高等学校を卒業（二
十一期）、駒澤大学に進み、
大学卒業後は大学職員として
三十数年勤めてまいりまし
た。このたび事務長という重
責を担い母校に再びお世話に
なることになり、責任の重さ
とご縁の深さを感じておりま
す。

高校の事務は初めての経験
でもあり、その広範囲にわた
る内容と濃度への対応には、
まだまだ勉強不足で、毎日、
校長をはじめ周囲の皆さんに

奉職にあたり

教諭 亀田 雄人

母校に奉職させていただ
き、早いもので六年目になり
ました。公民科、サッカー部
の顧問として母校の教壇に立
たせていただいている亀田と
申します。十年前に駒大高校
を卒業し、将来は必ず教師に
なることを決意し、大学に進
学しました。駒大高校での高
校時代は「国立競技場」とい
う夢の舞台を目指して努力す
る毎日でした。また、私にと
って教師としての「教室」は
「国立競技場」と同じ夢の舞
台でした。そんな夢の舞台に
現実立つことができています
私は本当に幸せ者だと感じて
います。

実際に教師になってからの
駒大高校での生活は毎日が楽
しくて仕方ありません。幸せ
そのものです。生徒の笑顔や
成長は自分の事のように嬉し
く、サッカー部員と一緒に再
び「国立競技場」という夢を
追いかけることができる毎日
は本当に幸せなことです。

サッカー部は今年、一五六
名の大会でスタートしまし
た。「駒大高校でサッカーが
したい」と考えてくれる中学
生が増え、今では東京で最も
巨大なサッカー部に成熟しま
した。「サッカーを通じて人
生を学ぶ」ことを目的に一五
六名全員が自己改革のために
精進しています。また、今年
度は関東高校サッカー大会の
東京都大会で初優勝し、東京
都のトップリーグであるT1
リーグでも優勝することがで
きました。十五歳の中学生が
駒大高校の三年間を通じて、

姿勢を大切にしています。こ
れからも『主体変容』を自分
自身に言い聞かせ、生徒と共
に自己改革していきたいと思
っています。自身の成長が
駒大高校の発展、生徒の成長
につながるように全力で精進
していきたいと思っています。
私立学校の経営も厳しくな
ってきている昨今、駒大高校
をより魅力ある学校に進化さ
せ続けることが大切だと感じ
ています。進歩の足を止めた
瞬間に取り残されてしまう時
代になってきました。私自身
も学校としても常に進化し続
けることができるように精進
していきたいと思っています。そ
して、駒大高校に関わる全て
の方々が誇りを持てるような
学校になっていくことを願っ
ています。これからもご指導
ご鞭撻のほどよろしくお願い
いたします。



第60期B組 卒業式にて

教員紹介

平成十九年度
亀田 雄人
(政経・五十期)

宮林 稔 (理科)
玉森 太朗 (英語)
戸田 光信
(保体・四十三期)

平成二十年度
安達 裕好 (地歴)

風間 卓哉 (数学)
橋本 実穂 (国語)

向中野 正和 (英語)
芹沢 知香 (英語)

平成二十一年度
長谷川 宏一 (理科)

山下 弘恵 (理科)

平成二十一年度
小島 周 (国語)

金田 優哉 (保体)

矢吹 哲仁 (数学)

上野 智佳子 (地歴)

退職者年譜

平成十九年度退職

谷口 英嗣 (理科)
専任一年・常勤二年・
非常勤十七年

永澤 直樹 (国語)
常勤一年

平成二十年度退職

浦 敏之
(校長・英語・十三期)

柏崎 康利 (保体)
四十二年

平成二十一年度退職

深谷 元 (地歴)
四十年

馬場 捷美 (地歴)
四十二年

須賀 喜一郎 (数学)
三十八年



平成22年度
新役員

会長
妻倉 由明 (16期)

副会長
高木 恒一 (16期)

庶務
久保田昌希 (18期)

白鳥 正志 (23期)

鈴木 俊孝 (25期)

米山 正行 (26期)

河口 正之 (26期)

児玉 守弘 (26期)

馬場 元司 (31期)

井上 誠二 (33期)

村松 哲文 (36期)

田中 大輔 (46期)

加藤 寛隆 (47期)

大澤美由紀 (48期)

亀田 雄人 (50期)

木村 紀子 (52期)

田中 敬子 (53期)

会 計
荒井 仲夫 (20期)

戸田 光信 (43期)

大石 智子 (事務)

会 計 監 査
高木 正博 (15期)

吉野 信行 (28期)

名譽会長
眞田 治孝 (5期)

相談役
秋山 彰三 (1期)

大谷 康憲 (3期)

田上 太秀 (4期)

名譽役員
原 正男 (1期)

濱田 好晃 (8期)

宮田 利徳 (15期)

特別顧問
鈴木 貞雄 (校長)

顧問
貫井 洋 (教頭)

白倉新治郎 (事務長・21期)

丸山 精一 (総務部長)

井上 保宏 (教務部長)

渡我部由紀 (校友会主任)

常任幹事
市川道太郎 (1期)

菅原 信昭 (2期)

前川 信昭 (3期)

坂井 茂 豊 (4期)

清水 俊一 (7期)

吉沢 道雄 (10期)

浦 敏之 (13期)

渡辺 幸一 (16期)

石渡 進 (17期)

前田 光俊 (18期)

岡弘 清孝 (18期)

丹野 滋夫 (20期)

辻 克治 (21期)

山根 真一 (23期)

栗山 和美 (24期)

小林 正行 (27期)

宮沢 新一 (29期)

野口 直正 (30期)

北見 英之 (32期)

松本 盛一 (33期)

田中 秀一 (34期)

相宮 透潤 (35期)

石原 健介 (36期)

川端 勝男 (39期)

岡本 敬仁 (40期)

山場 拓 仁 (41期)

山口 義孝 (42期)

成田 聡 孝 (43期)

安仲 剛 聡 (44期)

佐藤 衛 剛 (45期)

塩津 順平 (46期)

井上 智晴 (47期)

菅原 正和 (49期)

上原 圭太 (50期)

石井 瑞希 (51期)

村 真理子 (53期)

武島 実佳 (54期)

齋藤 典明 (55期)

太田 育郁 (56期)

二杉 洋香 (57期)

森下 優香 (58期)

遠山 岬 岬 (59期)

佐藤 朱里 (60期)

幹 事 三 八 一 名 (60期)

高橋 洋太 (A組)

小山 翼 (C組)

勝見 杏菜 (D組)

前川 紗耶 (E組)

加藤 大典 (F組)

寺尾 美南 (G組)

中西 晴香 (H組)

林塚 菜 菜 (H組)

保坂 一朗 (I組)

佐渡 朱美 (I組)

佐渡 育代 (J組)

陰山 慶太 (K組)

委員長
荒井 仲夫 (20期)

委員
原 正男 (1期)

眞田 治孝 (5期)

高木 由明 (16期)

高木 恒一 (16期)

日吉 明廣 (19期)

馬場 元司 (31期)

大澤美由紀 (48期)

石井 瑞希 (51期)

木村 紀子 (52期)

村 真理子 (53期)

役付きを拝命して



今年度役員改選で「会計」という役付きを拝命しました。同窓会の会員の皆様には、挨拶方々ご鞭撻を賜りたく筆を取りました。突然この役職が私に降りかかったとは思いません。なぜなら役員庶務として役員会の末席をいただき勝手に願っていた経緯がありました。また、同窓新報編集の職に付かせていただき、今日楽しく同窓会にいたから何だかんだあってと推察します。長年会計職を

続けてこられた妻倉新会長の後釜にグッドタイミングにはまったといえるでしょう。会計の任にあたり、わからないことばかりですがここは一人で考えるより皆様のお力を借りながら謙虚に職を続けて同窓会に貢献していきま

す。同窓会で会計と同窓新報の二足のわらじでこれからも務まりますよう宜しくお願いいたします。

(二十期)

平成21年度 駒澤大学高等学校同窓会収支計算書 (平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)					平成22年度 駒澤大学高等学校同窓会収支予算書 (平成22年5月22日)				
収入の部					《《 収入の部 》》				
項 目	予算額	決算額	差異	備 考	項 目	前年度予算	本年度予算	備 考	
入 会 金 収 入	7,200,000	7,095,000	105,000	@15,000×473名	入会金(@15,000)	7,200,000	7,695,000	(@15,000×513名)	
年 会 費 収 入	1,020,000	1,249,000	△ 229,000	@2,000×473名 946,000 郵便振込分 301,000 窓口受付三井入金分 2,000	年会費	1,020,000	1,086,000	(2,000×513名)+卒業生郵便振込60,000(29名)	
寄 付 金 収 入	11,000	21,000	△10,000	郵便振込分 13,000 窓口受付三井入金分 8,000	寄付金	11,000	25,000		
雑 収 入	170,189	5,794	164,395	受取利息	雑収入	170,189	10,000		
前年度繰越金	23,035,085	23,035,085	0		前年度繰越金	23,035,085	26,923,096		
収 入 合 計	31,436,274	31,405,879	30,395		合計	31,436,274	35,739,096		
支出の部					《《 支出の部 》》				
事 務 費 支 出	700,000	338,276	361,724	HP打込料 振込手数料等	事 務 費	700,000	338,276	700,000	
通 信 費 支 出	200,000	81,361	118,639	NTT電話料金 郵便代	住所管理委託費	0	0	2,000,000	
会 議 費 支 出	1,000,000	636,622	363,378	役員総会 常任幹事会	通 信 費	200,000	81,361	200,000	
慶 弔 費 支 出	500,000	305,750	194,250	香典 記念品代等	会 議 費	1,000,000	636,622	1,000,000	
同窓新報発行費支出	8,500,000	1,969,209	6,530,791	第43号同窓新報発送費 編集会議	慶 弔 費	500,000	305,750	500,000	
クラス会助成費支出	400,000	180,000	220,000	クラス会10件 OB会8件	同窓新報発行費	8,500,000	1,969,209	8,500,000	
クラブ助成費支出	1,000,000	971,565	28,435	吹奏楽部ソプラノサクソ 男子バレーボール部検定球	クラス会助成費	400,000	180,000	300,000	
文化活動費支出	1,000,000	0	1,000,000		クラブ助成費	1,000,000	971,565	1,000,000	
同窓会60周年記念事業準備金支出	200,000	0	200,000		文化活動費	1,000,000	0	1,000,000	
同窓会60周年記念事業積立金支出	1,000,000	0	1,000,000		同窓会60周年記念事業準備金	200,000	0	200,000	
予 備 費 支 出	1,000,000	0	1,000,000		同窓会60周年記念事業積立金	1,000,000	0	2,000,000	
次 度 度 繰 越 金	15,936,274	26,923,096	△10,986,822	※	予 備 費	1,000,000	0	1,000,000	
支 出 合 計	31,436,274	31,405,879	30,395		小 計	15,500,000	4,482,783	18,400,000	
※：内訳					次年度繰越金	15,936,274	26,923,096	17,339,096	
三井住友銀行 桜新町支店 (普通)	22,125,248			三井住友銀行 桜新町支店 <記念事業> (普通) 0	総 計	31,436,274	31,405,879	35,739,096	
三井住友銀行 桜新町支店 (定期)	0			城南信用金庫 用賀支店 (普通) 840,951					
三井住友銀行 桜新町支店 <金費> (普通)	173,902			城南信用金庫 用賀支店 (定期) 0					
三井住友銀行 桜新町支店 <記念事業> (普通)	0			世田谷信用金庫 振替 3,782,995					
※ 合計 26,923,096									
平成22年4月13日									
同窓会会計監査 高木 正博 (印)									
同窓会会計監査 吉野 信行 (印)									

執行部が一新されました。トップから役付、庶務まで新しい。同窓会運営という道筋がある中で、執行部がどのように活動・運営されるか期待の初年度。

人と人が何らかの目的で会えば、言葉や身振りなどで何らかの動きをする。これが「挨拶」。辞書を引くと、仏教用語の「和会通釈」（わえつうしゃく）略して「会釈」から変遷したのが「挨拶」という。

「挨拶」は、人間相互の融和を導き出す簡単な行動。私自身、人生五十を過ぎて今も「挨拶」は繰り返して行っている。知らない人、再会の人、身近な人、疎遠な人、この世にいない人まで。

何かする時、リーダーから「よろしく」といわれたら、任せられた気持ちが嬉しい。それから起こす行動の過程は、単純でなくなり、その目的を終わらせられたらハッピー。地球の裏側で起きたチリ落盤事故救出の裏側の美談にも頷ける。

今この時を大切に、「挨拶」は始まりの動作。そして一新した執行部のリーダーシップは何を起こすのだろうか。舞台は始まった。

(あらい)

編集局より
会員の皆様
投稿をお待ち
します

ハ転七起